

教育目標		自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習意欲をわかせる学習活動」「協同的探求」についての研修会や授業研究をもとに、全教職員が指導方法の共有、改善を行っていく。</li> <li>「学習の手引き」を生徒、全教室に配布し、いつでも、誰でも学習内容や方法が理解できるようにしておく。</li> <li>「学級経営スキル」の向上を図り各担任が、学級経営目標を明示し、学年や学校間で共有できるようにする。</li> <li>教科部会での検討を綿密にし、教師全員が、年一回の公開授業を実施する。</li> <li>MY学と各教科からのWeekly課題の両立させ、家庭学習の充実を図る。</li> <li>毎日の終礼学習や、週2回のコミュニケーション・トレーニングを継続し、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」の通常授業に必要なスキルを身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおいて、「授業は分かりやすく楽しい」と回答した割合が80%以上になる。</li> <li>生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が90%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業はわかりやすく楽しい」と答えた生徒が80.2%となり、目標の数値に到達した。</li> <li>「先生は教え方にいろいろ工夫している」と回答した生徒は87.5%で目標の数値には到達できなかったが、前年度より0.2%上回った。</li> <li>学期始めに荒牧中学校の授業スタイルを説明し、授業の流れを分かりやすく生徒が理解できるようにした。</li> <li>校内研修会や授業研究をもっと活発にし、指導方法の工夫、改善をする必要がある。</li> <li>家庭学習(MY学、Weekly課題)へのつながり、意欲や関心を向上させるような「探究活動」を研究する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のはじめに「本時の目標」を黒板に明示し、内容はもちろん、授業の流れや到達度を誰もが理解出来るような授業改善を続ける。</li> <li>授業終わりには「ふり返し」を毎時間行い、学習内容の積み重ねを意識させる。</li> <li>見通しをもった授業計画にあわせた提出課題を生徒に明示し、Weekly課題として家庭学習にもつなげる。</li> <li>毎日の終礼学習やコミュニケーション・トレーニングを活かせる場面に授業に取り入れたり、行事などでそのような場を設定するなどして「聞く」「書く」「話す」基礎的な力の重要性を認識させ、定着を図る。</li> <li>学習意欲をわかせる、家庭学習の充実(MY学)にもつながるような「探究活動」を研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題や家庭学習をしっかりしたい生徒については、教科内で課題を調整し、課題のすすめ方や取り組み方などの指導を行うことが効果的である。</li> <li>教師が受け持つ生徒の割り当てを考えて、少数個別学習を導入すると効果的な学習になる。</li> <li>「読むこと」「書くこと」への抵抗感を少しずつ減らす取組の中で、「書くこと」に関しては具体的に教師が書き方を教えていく方が効果的である。</li> <li>引き続き、「めあての明示」、「振り返り活動」を徹底していくことが大切である。</li> </ul>
	学習習慣の獲得	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の手引きを活用する。</li> <li>長期休業中、放課後、土曜休業日の補習学習の充実に取り組む。</li> <li>My学ノートの内容充実を図るため、学年に応じた目標を設定する。</li> <li>学期ごとに各教科の学習内容と家庭学習の方法をプリントにして配布する。保護者に宿題を伝え、連携を図りより一層家庭学習を充実させる。</li> <li>生徒・保護者ともに宿題が分かるように連絡帳の記入を徹底させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒を70%に増加させる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の家庭学習の時間が1時間以上の生徒が62.9%で、70%には満たず、前年度より2.4%減少し、一昨年と同じ数値となった。</li> <li>家庭学習を2時間以上している生徒も、前年度から減少し20.3%となっている。</li> <li>引き続き、1時間未満や全くしない生徒に対しての指導、具体的な手立てを考えることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習(My学ノートの活用)の必要性を再度認識させる。</li> <li>自学の方法を各教科で詳しく指導する。</li> <li>学習委員会等の係を利用して、啓発活動をより活発にする。</li> <li>宿題の内容や頻度などを、各教科で検討、共通理解していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の充実をはかるためには、既習内容の復習が重要である。生徒に学習内容が定着する取り組みを行う必要がある。</li> <li>上位の学年になるにつれ、学習への意欲の低下が見られる傾向がある。学習への意義についてもっと教える必要がある。</li> <li>ノートの取り方については、教師側がポイントを示すと効果的である。</li> <li>My学ノートの質を向上させるために、見本となるノートを展示して生徒に啓発していくこともよいのではないかと。</li> <li>My学ノートを実施するにあたり、その効果を検証する必要はある。</li> </ul>
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動の習慣化、定着化を図る。</li> <li>読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月水金の朝、昼休みの開館を継続する。</li> <li>図書当番の活動を徹底する為、行事予定通り、週番での当番に統一した。</li> <li>朝読書用集団読書を新たに購入して配架する。</li> <li>蔵書の内容を充実させるために、購入図書の検討を行う。</li> <li>年度末に貸出数の多かった生徒を表彰する。</li> <li>1年生の入学後早い段階で図書館の利用指導を行う。</li> <li>読書の記録「読書貯金」をすることで読書を習慣化を目指す。</li> <li>新聞の開架</li> <li>学級図書増加。</li> <li>校外学習用の資料をさらに充実させ、総合的な学習の時間等でも資料のみならず、図書館を利用していく。</li> <li>「図書館だより」「学校だより」「ホームページ」で学校での読書活動の取り組みを紹介し、家庭での読書習慣につなげる。</li> <li>「ビブリオバトル」などを通して読書活動を生かす取り組みをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸し出し冊数10000冊</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月末貸出冊数が7,982冊で、前年度より15%減のため目標の10,000冊には達成できない。</li> <li>生徒アンケートでは「読書に力を入れている」と答えた生徒が71.4%(昨年74.8%)となった。保護者アンケートでは「家で読書している」と答えた保護者が31.2(昨年26.5%)「図書館で本を借りている」と答えた保護者が41.3%(昨年37.3%)となった。</li> <li>蔵書の内容を充実させるため、昨年度末に巡回図書を行い、先生方に本を選んでいただいた。また、生徒が取っつきやすい本だけでなく読み応えのある読み物を購入し、新聞の開架も行った。</li> <li>朝読書の本も文庫本だけでなく、1年生では日本文学の名作の短編本を導入した。</li> <li>貸出数は減少したが、読み応えのある本が増えたため、図書室で貸し出した本を家に持ち帰り読んでいたことが保護者アンケートからうかがえる。</li> <li>図書館まつりはメイプルさんを中心に行い、司書と学習委員の生徒は昨年の反省を改善して、引き続き「移動図書」を行ったが、図書館の来館は少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝、昼休みの開館を継続するとともに、図書当番の活動がスムーズに動けるようにする。</li> <li>学習委員会と連携し、学級図書増加、移動図書館を定期的に行ったり、集団読書の種類をさらに増やすなど、生徒が親しみやすい環境をさらに整備していく。</li> <li>図書館だより、学校だより、ホームページ等により学校で行っている読書活動について、継続して保護者や地域に周知していく。</li> <li>校外活動用の資料が充実しているため、総合的な学習の時間に活用できるよう周知し、さらに授業で活用していく。</li> <li>図書館まつりを司書と学習委員と連携して内容を新たに充実させたい。</li> </ul>

教育目標		自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～						
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒数を減少していけるように、個々に応じたきめ細かい対応をする。</li> <li>・一人ひとりの生徒や家庭がなんらかの形でどこか（誰か）とつながれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合を80%以上にする。「先生は生徒の悩みや不安に親身になって相談のしてくれる」を85%以上にする</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校に行くのが楽しい」と回答する生徒の割合が3年生は80%に達したが、1、2年生は70%に達していない。</li> <li>・「新規」を抑えることがなかなかできていない。</li> <li>・昨年度より小中の連携が進んだ。</li> <li>・やまびこ館等関係機関との連携を密にし、効果的に指導をすすめることができた。</li> <li>・別室に多くの生徒が来れるようになった。</li> <li>・行事や式の時などに、10人以上の生徒が出席し、離れたところからではあるが、参加することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや人権侵害について学んだり考えたりする機会をふやし、人を傷つけない人権意識を持った学級、学年集団を作る。</li> <li>・別室の監督を時間割に入れる。</li> <li>・学校に来にくい生徒が何らかの形で出席、参加できるようにさまざまな工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校が依然多い現状がある。個々のケースにおいて、原因がどこにあるかの見極めが必要である。</li> <li>・不登校対応は学校だけでは困難な面がある。地域を巻き込む形で、人材（民生児童委員等）の活用を積極的に進めてほしい。</li> <li>・1年生での不登校の出現が多くなっていることをふまえ、小学校との積極的な連携をしていく必要を感じる。また、中学校卒業後の様子を把握する必要がある。</li> <li>・別室指導の工夫がこれからの課題である。</li> </ul>	
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導係会を定期的に開催し、情報交換を密に行う。</li> <li>・係会の確認事項を学校・学年での共通理解事項としていく。</li> <li>・職員間で連携を取り全職員が同一歩調で生徒指導を行うとともに、報告・連絡・相談体制を整え、生徒指導事案の情報共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、生徒アンケートにおいて「学校は適切に生徒指導をしている」と回答する割合を保護者、生徒とも90%以上にする。</li> <li>・教職員アンケートにおいて「組織的に対応できる体制が整っている」と回答する割合を85%以上にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者アンケートで「学校は適切に生徒指導をしている」という項目が85%と昨年と変わらなかったが、目標を上回ることができなかった。</li> <li>・教職員アンケートで「組織的に対応できる体制が整っている」という項目が昨年度を20ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導係会で情報共有を行っているが、学年内の報告、連絡、相談体制をさらに密にする。</li> <li>・生徒指導事案の情報共有を図るとともに、家庭訪問や教育相談を通じて、普段から良好な関係作り努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に比べ学年内や学年相互の連携がよく出来ている。積極的な生徒指導を行うために、これからも連携を大切にして取り組んでいただきたい。</li> <li>・学校が崩れるのは非常に早い。先生方には、危機感を持って指導にあたっていただきたい。</li> </ul>
	いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートを実施し早期発見、実態把握を行う。</li> <li>・生徒や保護者の訴えやアンケートをもとに教育相談を行い、早期対応に取り組む。</li> <li>・いじめ事案については、学年・学校で情報共有を行い、職員間で連携を図って、継続した指導を行う。</li> <li>・QJアンケート等を活用し、いじめの未然防止に努めるとともに、いじめの認知件数を増やし、いじめの芽を摘む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめられていると感じる」生徒を0%にする。</li> <li>・「いじめられていると感じない」生徒を100%にする。</li> <li>・「学校へ行くのが楽しい」と回答している生徒を80%以上にする。</li> <li>・「先生は相談に乗ってくれている」と感じる生徒を85%以上にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートで「いじめられていると感じない」生徒は94%と目標に近づくことができた。ただし、「とても感じる」の項目を0%にすることができず、「いじめられていると感じる」生徒が5%いた。</li> <li>・「学校に行くのが楽しい」と回答している生徒が71.4%で昨年度より5%減少した。</li> <li>・「先生は相談に乗ってくれている」と感じる生徒は76.6%で昨年度より3%減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級が安心、安全で心の居場所となるような学級経営についての研修を行う。</li> <li>・いじめアンケートを実施後、教員間で情報の共有を図り、早急かつ継続的な対応を取る。</li> <li>・担任だけでなく、チーム荒牧として気になる生徒へのコミュニケーションを密にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを実施することにより、早期発見に努めていることは、今後も継続して行っていただきたい。</li> <li>・いじめに対する教師側の気づきは重要である。生徒観察をしっかり行っていただきたい。また、先生方には「いじめに関する研修」等で研鑽していただきたい。</li> </ul>
	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心の教育」を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を中心にすべての教育活動を通じて、命のたいせつさ、相手を思いやる心を育む。</li> <li>・教科化によりできた新しい「教科書」の教材を効果的に活用して道徳授業を行う。</li> <li>・道徳授業において生徒一人ひとりの考えや思いを見取り、一人ひとりの成長がわかる記述式評価を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を87%以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートで「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」という項目は87.1%と目標値とほぼ同数になった。</li> <li>・校内研修会で記述式評価の研修を行うなど、教科化ということで組織的に教員のスキルアップを行った。</li> <li>・新しい教科書の良さを授業で十分に生かしきれなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんとした記述式評価を定着させていく。</li> <li>・教科書の活用を含め、授業力向上に向けての研修を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳の教科化」が導入されたが、引き続き教師側の道徳観を向上させるとともに、校内研修等を念に行い指導にあたっていただきたい。また、評価についても研修を深めていただきたい。</li> <li>・道徳は生活全般に必要な事柄なので、教科を越えた指導を行う必要がある。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに自己の健康面に対する意識を高める指導を行う。</li> <li>・部活動では競技力の向上に努める。</li> <li>・教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめ、活動時間を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストバッジ受賞者は3年生35%、2年生25%、1年生10%を目指す。</li> <li>・保健だよりについては、熱中症やインフルエンザなどの主要なものについてもHPに掲載し、より細かい情報を発信する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストバッジ受賞者は3年生62%、2年生35%、1年生4%だった。</li> <li>・生徒、保護者、教師の全てにおいて85%以上が体力向上に努めていると感じている。生徒は0.3%増、教師は3%減、保護者は2%減となった。</li> <li>・活動時間を増やすために、教師からの説明を分かりやすく簡潔にまとめる取り組みは続けることができ、時間確保もできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と教師で体力向上に努めていないと感じている人を減らすために、2つの改善策を立てる。</li> <li>①部活動では昨年同様に継続して取り組むことを基本とし、保護者の願いにも応えられるよう各部努める。</li> <li>②学校だよりや保健だより、HPで怪我や感染症、タイムトライアルの結果など学校生活の気づきや成果を掲載する。また、授業でも健康指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツテストでは、かなり評価できる数値を出している。体力の向上がなされていると考えられる。</li> <li>・部活動については、引き続き休日1日、平日1日の休養日を設けての活動を行っていただきたい。</li> <li>・地域で体を動かす場所がなくなっている。体力向上やストレス発散の観点から課題はある。</li> </ul>

教育目標		自主、自立、感謝の精神を抱き、未来を拓く生徒の育成 ～豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる～					
重点目標		①確かな学力の育成 ②豊かな心・健康な体の育成 ③開かれた信頼される学校づくり					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信 ・積極的に学校情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンスクール週間や、授業参観を実施し保護者や地域の意見を学校運営に活かす。</li> <li>・学校だよりを発行し地域にも配布する。</li> <li>・学校ホームページをタイムリーに更新し、学校情報を積極的に発信する。</li> <li>・保健だよりなどを通して、健康管理の啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だよりを発行する。</li> <li>・自校のホームページをタイムリーに更新する。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上となる。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応じている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校は、学校の情報を学校だよりやHPを通じて保護者に伝えている。」と回答した保護者が92.4%であった。</li> <li>・上記の結果は昨年を若干下回る結果であった。情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）をさらに充実したものにすることが課題である。</li> <li>・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が83.7%であった。</li> <li>・保護者アンケートにおいて「学校は保護者の願いに応じている」と回答した保護者の割合が77.2%で、昨年の75.9%より少し上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果や保護者の意見を考慮し改善していく。</li> <li>・情報発信（学校だより、ホームページの生徒会、部活動、学年だより、お知らせ等）を継続して充実したものにす。</li> <li>・家庭訪問や懇談会等での意見等を必要に応じて学年、学校内で共有し、改善できるものについて手だてを具体的に講じる。</li> <li>・メール配信システム「ミマメルメ」の登録家庭数増加の取り組みを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信については、保護者から高い評価を受けていると聞いている。引き続き取り組みをお願いしたい。</li> <li>・メール配信システム「ミマメルメ」の活用も順調と聞いている。ただ、登録家庭数が100%ではないので、登録数増加に向けての取り組みを進めていただきたい。</li> <li>・家庭訪問がなくなり、いろいろな場面で不都合を感じていると聞いている。来年度から再度実施することを提案する。</li> </ul>

学校関係者評価総括  
 「学習習慣の獲得」でC評価となっている。My学ノートの取り組みなど評価できる部分はあるが、学習の根幹に関わる事項のため、効果的な取り組みを行っていただきたい。「不登校への対応」については課題が多くあるため、原因を早期に把握し、適切な対応をお願いしたい。「体力の向上」に関してはB評価となっている。全国体力・運動能力では多くの種目で全国の値を上回っており、部活動でも良い結果を出しているため、評価に値する。荒牧中学校では、学習規律、協同学習の取り組みを続けており、落ち着いた学習環境の中で学習活動が展開されており成果はあらわれている。学校運営上特に大きな問題はないが、「新学習指導要領」の改訂など、学校教育を取りまく環境が大きく変わる転機を迎えようとしている。これからの時代に合わせた教育の実践を期待したい。

次年度に向けた重点的な改善点  
 これまでの本校の研究では、「めあての明示」「振り返り活動」等、子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」が実践できる授業改善を行ってきた。しかし、今年度の学校評価を分析するにあたり、生徒の家庭学習時間の不足、My学ノートの活用方法など学習面での課題が多くある。次年度に向けて、「生徒がわかる授業」を提供していくことが大切であり、家庭学習の充実をどのように図るか、生徒に学習の意義をどう伝えるか、My学ノートの活用の検証など、取り組むべき課題が見えてきた。また、来年度からはICTを活用した授業研究をさらにすすめていく。生徒一人一台のタブレット端末が整備されるからである。生徒が興味関心を示す授業づくりが課題となり、教師側のさらなる研修が必要である。また、生徒指導面での大きな課題である不登校問題では、効果的な対応を行うために、教職員の共通理解のもと、足並みを揃えた実践をしていく必要がある。また、道徳が教科化となり、こどもたちの心の教育が一層大切な時代となっている。これからの時代を生き抜く資質・能力を身につけさせることは、最大の学校教育目標である。荒牧中学校が目指す学校運営を管理職が中心となって、教職員全体へ周知徹底し、本校の学校教育目標の具現化をめざしていく。

自己評価の基準    A：目標を上回った    B：目標どおりに達成できた    C：目標をやや下回った    D：目標を大きく下回った